

# 「第26回日本骨粗鬆症学会」無事終了のご報告と 骨の健康へのさらなる取り組み

金沢から全国へ広がる「骨の健康」の意識改革 ― 人生100年時代、骨粗鬆症予防と治療の未来へ ―



一般社団法人  
日本骨粗鬆症学会

## 骨粗鬆症の脅威と啓発活動の重要性

骨粗鬆症は「沈黙の疾患」と呼ばれ、進行しても自覚症状が乏しいため、早期発見と治療が極めて重要です。大腿骨骨折を伴う骨粗鬆症患者の5年生存率は約50%と、がん患者の69%と比較しても低く、また骨折後に介護が必要となった場合の費用は5年間で約1,450万円にも達するという試算もあります。

そのため、骨粗鬆症検診を通じた予防と進行抑止が求められています。検診受診を促進するためには、マスメディアを活用した幅広いPR活動が必要不可欠です。

## 金沢での取り組み

公益財団法人骨粗鬆症財団と連携し、金沢では「金沢骨を守る会」を2009年に発足。金沢駅での10月20日の世界骨粗鬆症デーのタペストリー掲示、鼓門のブルーライトアップ、骨量測定体験や講演会など多岐にわたる啓発活動を行ってきました。その成果

もあり、全国平均の骨粗鬆症検診受診率が5%程度にとどまる中、石川県は12%、金沢市は27%と全国有数の高い受診率を誇ります。これからも「骨の健康県」としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮し続けていきます。



金沢駅タペストリー掲示

## 日本骨粗鬆症学会

昨年10月、石川県金沢市で「第26回日本骨粗鬆症学会(会長 三浦雅一:北陸大学理事・薬学部教授/金沢骨を守る会代表)」を開催しました。この大会の目的は、医師とメディカルスタッフのネットワーク構築と最新の情報共有を通じて、骨粗鬆症に対する医療の質を高めることにあります。また、5,328名が参加したことで地域に経済効果をもたらし、「また来たい」と思える金沢の魅力を広めることができました。

大会は例年の1.5倍のプログラムを提供し、非常に

充実した内容となりました。さらに、高円宮妃殿下のお成りや震災募金活動を通じた能登半島復興支援、余剰弁当の「スマイリーキッチンごはん」への寄付など、社会貢献にも力を入れました。

この大会を通じて、金沢は骨粗鬆症に関するリーダーシップを発揮し、骨の健康への意識を全国へ広げていく決意を新たにしました。今後も地域と協力しながら、検診受診の促進と骨粗鬆症予防の啓発活動を推進してまいります。



金沢駅鼓門ブルーライトアップ



三浦 雅一氏  
北陸大学理事・薬学部教授  
金沢骨を守る会代表



会場：石川県立音楽堂



余剰弁当の寄付